

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年2月14日
【四半期会計期間】	第72期第3四半期(自平成28年10月1日至平成28年12月31日)
【会社名】	東京ボード工業株式会社
【英訳名】	T O K Y O B O A R D I N D U S T R I E S C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 井上 弘之
【本店の所在の場所】	東京都江東区新木場二丁目11番1号
【電話番号】	03- 3522- 4138
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理部長 尾股 拓彦
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区新木場二丁目11番1号
【電話番号】	03- 3522- 4138
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理部長 尾股 拓彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第 3 四半期 連結累計期間	第72期 第 3 四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年12月31日	自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日	自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日
売上高 (千円)	4, 242, 916	4, 334, 133	5, 620, 446
経常利益 (千円)	439, 604	297, 568	516, 704
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (千円)	441, 842	161, 985	507, 554
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	492, 751	214, 674	569, 667
純資産額 (千円)	5, 359, 778	5, 596, 893	5, 436, 694
総資産額 (千円)	11, 642, 983	20, 775, 232	11, 433, 806
1 株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	172. 57	63. 23	198. 24
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期) 純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	42. 6	24. 7	43. 9

回次	第71期 第 3 四半期 連結会計期間	第72期 第 3 四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年10月 1 日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月 1 日 至 平成28年12月31日
1 株当たり四半期純利益金額 (円)	70. 7	46. 05

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期) 純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、第71期第 2 四半期連結会計期間より「役員報酬 B I P 信託」を導入しております。当該信託が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として計上しております。このため、1 株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において当該株式数を控除する自己株式に含めております。

2 【事業の内容】

当第 3 四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融緩和の実施等を背景として、景気は緩やかな回復基調が続いているものの中国など新興国の景気減速や英国のEU離脱宣言、米国大統領選の影響などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが事業の主体を置く住宅市場においては、新設住宅着工戸数が戸建て住宅で増加したもののマンションが減少したため、分譲住宅全体で減少となり依然として厳しい状況が続いております。このような経営環境のもと、当社グループは市場ニーズに合致した製品開発とサービス向上を図り、積極的な販売活動及び設備投資を推進してまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は4,334,133千円（前年同期比2.1%増）、営業利益は442,811千円（前年同期比2.6%減）、経常利益は297,568千円（前年同期比32.3%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期に特別利益として計上していた役員退職慰労引当金戻入額137,450千円の特種要因がなくなったことなどから、161,985千円（前年同期比63.3%減）となりました。

セグメント業績を示しますと、次のとおりであります。

① 木材環境ソリューション事業

マンション用床材を中心としたパーティクルボード販売は、素板及び加工品の販売が堅調に推移し、売上高は4,023,765千円（前年同期比2.4%増）となりました。また、接着剤原料価格、電気料金及びガス料金等の減少によりセグメント利益（営業利益）は466,689千円（前年同期比4.9%増）となりました。

② ファシリティ事業

テナントの稼働は堅調に推移し、売上高310,368千円（前年同期比1.4%減）、セグメント利益（営業利益）は154,978千円（前年同期比2.1%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ9,341,426千円増加し、20,775,232千円となりました。千葉工場（仮称）建築に伴う建設仮勘定5,014,872千円の増加並びに借入金及び社債の発行等により現金及び預金が4,185,932千円増加したほか、受取手形及び売掛金が287,234千円増加したことが主たる要因であります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間における負債の残高は15,178,338千円となり、前連結会計年度末に比べ9,181,226千円増加いたしました。長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が6,728,990千円増加し、社債が2,462,000千円増加したことが主たる要因であります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間における純資産の残高は5,596,893千円となり、前連結会計年度末に比べ160,199千円増加いたしました。親会社株主に帰属する四半期純利益の計上が主たる要因であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、対処すべき課題の重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は38,329千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,120,000
計	13,120,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,660,369	3,660,369	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株であります。
計	3,660,369	3,660,369	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日	—	3,660,369	—	221,000	—	19,956

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,014,800	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,644,600	26,446	—
単元未満株式	普通株式 969	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,660,369	—	—
総株主の議決権	—	26,446	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬BIP信託口・75843口)が保有する当社株式83,000株(議決権の数830個)が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式25株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京ボード工業株式会社	東京都江東区新木場二丁目11番1号	1,014,825	—	1,014,825	27.72
計	—	1,014,825	—	1,014,825	27.72

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬BIP信託口・75843口)が保有する当社株式83,086株は、上記には含まれておりません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、赤坂有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第71期連結会計年度	有限責任 あずさ監査法人
------------	--------------

第72期第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間	赤坂有限責任監査法人
------------------------------	------------

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,898,466	6,084,398
受取手形及び売掛金	1,303,294	※1 1,590,529
商品及び製品	352,791	305,625
仕掛品	59,381	71,521
原材料及び貯蔵品	144,892	135,476
繰延税金資産	77,646	77,549
その他	84,054	54,850
貸倒引当金	△ 1,025	△ 1,095
流動資産合計	3,919,502	8,318,856
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,196,720	3,200,213
減価償却累計額	△ 2,374,564	△ 2,412,344
建物及び構築物（純額）	822,155	787,869
機械装置及び運搬具	7,633,463	7,647,396
減価償却累計額	△ 6,840,483	△ 6,894,507
機械装置及び運搬具（純額）	792,979	752,889
土地	5,460,494	5,460,494
建設仮勘定	159,657	5,174,529
その他	159,570	165,139
減価償却累計額	△ 132,650	△ 138,096
その他（純額）	26,920	27,042
有形固定資産合計	7,262,207	12,202,825
無形固定資産	39,055	36,843
投資その他の資産		
投資有価証券	64,177	69,241
長期貸付金	1,788	5,011
破産更生債権等	14,000	14,858
繰延税金資産	1,318	2,961
敷金及び保証金	96,390	96,390
その他	49,765	43,501
貸倒引当金	△ 14,400	△ 15,258
投資その他の資産合計	213,040	216,707
固定資産合計	7,514,303	12,456,376
資産合計	11,433,806	20,775,232

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	679,551	※1 667,857
1年内償還予定の社債	76,000	76,000
1年内返済予定の長期借入金	442,020	442,020
未払金	256,205	184,789
未払法人税等	45,362	63,585
賞与引当金	51,609	52,852
その他	180,692	190,955
流動負債合計	1,731,442	1,678,059
固定負債		
社債	282,000	2,744,000
長期借入金	1,804,480	8,533,470
繰延税金負債	1,368,085	1,359,864
役員報酬BP信託引当金	21,375	51,556
退職給付に係る負債	199,747	214,837
受入敷金保証金	322,235	327,835
資産除去債務	262,413	263,382
その他	5,331	5,331
固定負債合計	4,265,669	13,500,279
負債合計	5,997,112	15,178,338
純資産の部		
株主資本		
資本金	221,000	221,000
資本剰余金	114,201	114,201
利益剰余金	6,130,932	6,240,006
自己株式	△ 1,453,720	△ 1,450,384
株主資本合計	5,012,413	5,124,823
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,454	14,968
その他の包括利益累計額合計	11,454	14,968
非支配株主持分	412,826	457,102
純資産合計	5,436,694	5,596,893
負債純資産合計	11,433,806	20,775,232

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	4,242,916	4,334,133
売上原価	2,714,987	2,799,456
売上総利益	1,527,929	1,534,676
販売費及び一般管理費	1,073,262	1,091,865
営業利益	454,666	442,811
営業外収益		
受取利息	244	34
受取配当金	3,062	2,618
受取家賃	2,777	1,635
助成金収入	-	8,465
受取保険金	2,202	5,106
その他	3,224	6,138
営業外収益合計	11,512	23,999
営業外費用		
支払利息	21,567	30,258
社債利息	1,299	2,265
資金調達費用	-	131,876
その他	3,706	4,841
営業外費用合計	26,574	169,241
経常利益	439,604	297,568
特別利益		
固定資産売却益	5,812	1,974
役員退職慰労引当金戻入額	137,450	-
特別利益合計	143,262	1,974
特別損失		
固定資産売却損	1,081	35
固定資産除却損	1,419	750
特別損失合計	2,500	785
税金等調整前四半期純利益	580,367	298,757
法人税、住民税及び事業税	65,473	98,913
法人税等調整額	22,316	△ 11,317
法人税等合計	87,790	87,596
四半期純利益	492,576	211,160
非支配株主に帰属する四半期純利益	50,734	49,175
親会社株主に帰属する四半期純利益	441,842	161,985

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	492,576	211,160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	174	3,513
その他の包括利益合計	174	3,513
四半期包括利益	492,751	214,674
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	442,016	165,498
非支配株主に係る四半期包括利益	50,734	49,175

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年 6 月17日) を第 1 四半期連結会計期間に適用し、平成28年 4 月 1 日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年 3 月28日) を第 1 四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

- ※ 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。
- なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	— 千円	29,999 千円
支払手形	— "	53,495 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
減価償却費	293,179 千円	270,125 千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月22日 定時株主総会	普通株式	76,810	30.00	平成27年3月31日	平成27年6月23日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
- 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	52,910	20.00	平成28年3月31日	平成28年6月27日	利益剰余金

(注)平成28年6月24日定時株主総会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託口が所有する当社株式(自己株式)85,200株に対する配当金1,704千円が含まれております。

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
- 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 連結損益計算書 計上額 (注2)
	木材環境 ソリューション 事業	ファシリティ 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,928,181	314,735	4,242,916	-	4,242,916
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,928,181	314,735	4,242,916	-	4,242,916
セグメント利益	444,888	151,737	596,625	△ 141,958	454,666

(注) 1. セグメント利益の調整額△ 141,958千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 連結損益計算書 計上額 (注2)
	木材環境 ソリューション 事業	ファシリティ 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,023,765	310,368	4,334,133	-	4,334,133
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	4,023,765	310,368	4,334,133	-	4,334,133
セグメント利益	466,689	154,978	621,668	△ 178,857	442,811

(注) 1. セグメント利益の調整額△ 178,857千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	172円57銭	63円23銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	441, 842	161, 985
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	441, 842	161, 985
普通株式の期中平均株式数(株)	2, 560, 344	2, 561, 812
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 . 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、 1 株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
1 株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は当第 3 四半期連結累計期間83, 086株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2 月14日

東京ボード工業株式会社
取締役会 御中

赤坂有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池 田 勉 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 荒 川 和 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京ボード工業株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京ボード工業株式会社及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。